

目 次

まえがき v

第1章 序 論	1
1.1. はじめに	2
1.2. 言葉の慣用性・修辞性	4
1.3. 言葉の論理性・非論理性	7
1.4. 言葉の身体性・主観性	9
1.5. 研究の展望	11
第2章 言葉の表現性と推論・連想の能力	15
2.1. 推論・連想のプロセスと言葉の修辞性	16
2.2. メトニミー的伝達の認知的制約	17
2.3. 推論・連想とメトニミー的認知	24
2.3.1. 連想の認知プロセス	24
2.3.2. メトニミーと連想プロセス	28
2.4. 言葉の論理と推論プロセスの諸相	36
2.5. 主観的推論と思考・判断の創造性	41
2.6. 主観的推論の推移性と認知的制約	45
2.7. デフォールト的推論と主観性	49
2.8. 研究の展望	53

第3章 虚・実の世界と言葉の修辞性…………… 59

- 3.1. 言葉と虚・実の世界 60
- 3.2. 修辞的表現と真偽の判断 61
- 3.3. 偽の発話の修辞性と推論 63
- 3.4. 客観論理の限界と真偽の問題 65
- 3.5. 主観的認知の世界と虚・実の世界 72
- 3.6. メタファーの論理と真偽の判断 77
- 3.7. 直喩表現の真偽判断の両極性 82
- 3.8. 形式論理の限界と自然論理 88
- 3.9. 研究の展望 90

第4章 文学表現の描写と認知プロセス…………… 95

- 4.1. 文学言語の表現性と認知プロセス 96
- 4.2. 行為・事態の描写と知覚プロセス 96
- 4.3. 見えの動的変化と情景描写 106
 - 4.3.1. 空間移動に伴う〈見えの変化〉と情景描写 107
 - 4.3.2. 主体の身体変化と言葉の主観性 112
 - 4.3.3. 主体の内面変化と言葉の主観性 113
 - 4.3.4. 言語表現における主体変化の背景化 114
- 4.4. 視線のダイナミックスと情景描写 115
- 4.5. 空間叙述の修飾性と自動性の制約 118
- 4.6. 視線の分散性・浮動性と情景描写 123
- 4.7. ズーミングの認知プロセスと情景描写 124
 - 4.7.1. ズームインの認知プロセスと描写 125
 - 4.7.2. ズームアウトの認知プロセスと描写 127
 - 4.7.3. 主体の身体変化・位置変化とズーミング 131
- 4.8. 視点のダイナミックスと描写の諸相 133
 - 4.8.1. カメラアイ的視点の切り換えと描写 133
 - 4.8.2. 視線シフトと情景・事象の描写 137
 - 4.8.3. 俯瞰的視線・方位的視線の投影と描写 140
- 4.9. 研究の展望 148

第5章 言葉の修辭的技朧と主観性	155
5.1. 言語表現の主観性	156
5.2. 擬人的描写と叙述の修辭性	157
5.3. 相貌の知覚と叙述の修辭性	161
5.4. 感情移入と自然描写	163
5.5. 擬人的共感と言葉の主観性	165
5.6. 心情の修辭的投影と言葉の主観性	173
5.7. 描写・叙述の「排句」的技朧	177
5.8. 小説の「推喩」的技朧	183
5.9. 研究の展望	189
第6章 一般的展望	199
引用例出典	207
参考文献	211
索引	215